

# 第1回 駿河海岸整備検討会

## 地震・津波から被害を軽減するための海岸整備

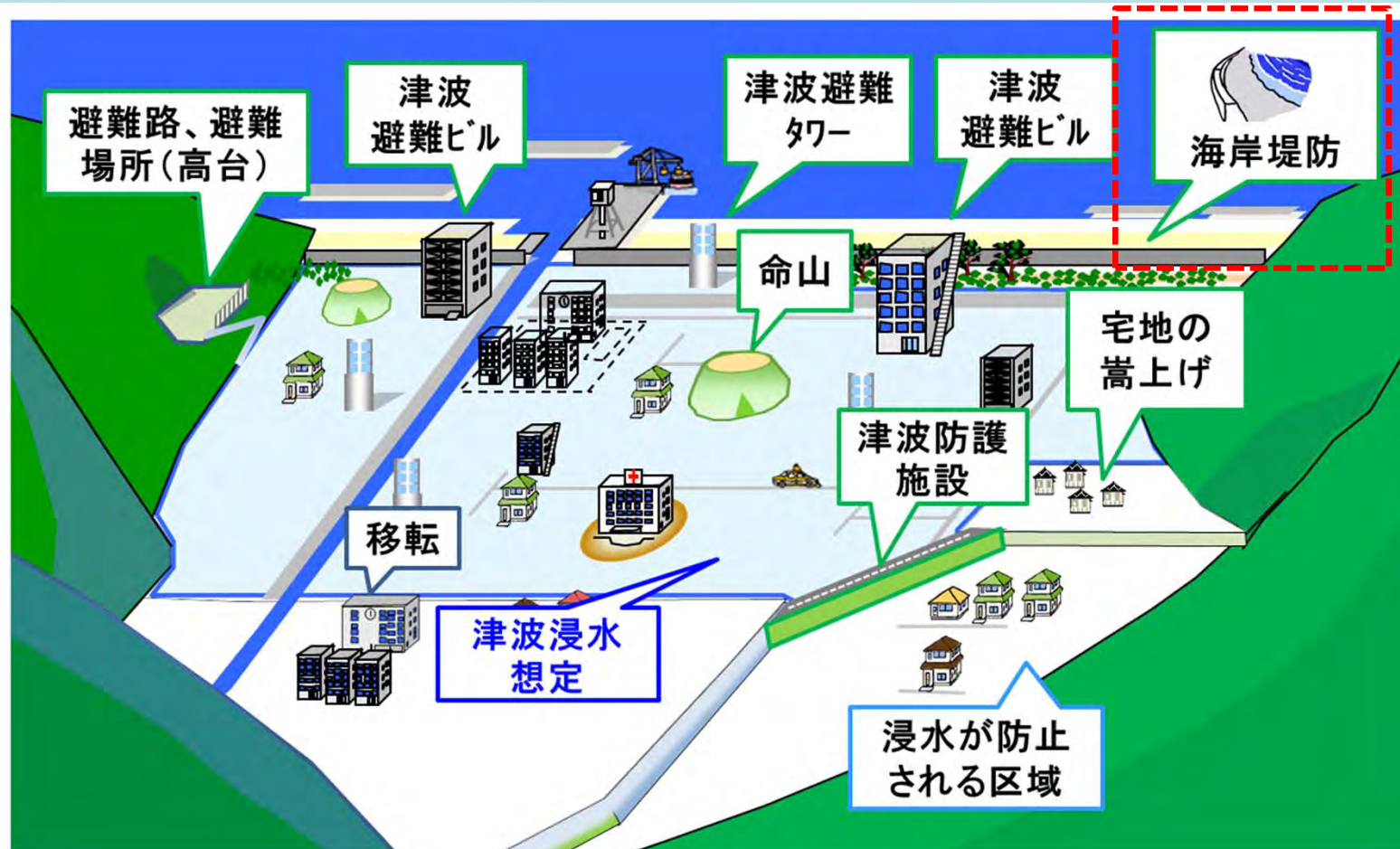
## に向けて

平成27年3月25日  
国土交通省 中部地方整備局  
静岡河川事務所

# 駿河海岸における堤防整備の検討

## ●駿河海岸整備検討会(仮称)の設立

目的：国土交通省が直轄施行区間として実施している駿河海岸における最大クラスとなる地震・津波に対する被害の軽減を図るための海岸保全のあり方について、当該地の災害リスク、背後の土地利用やまちづくり等のソフトとハードを組み合わせた地域防災、隣接する港湾、漁港等の海岸管理の関連事業の考え方を踏まえ検討することを目的とする。



総合的な防災・減災対策のイメージ

(出典：駿河湾沿岸海岸保全基本計画：静岡県)

# 駿河海岸における津波に対する災害リスク

## ●最大クラスの津波による静岡県の被害想定(静岡県第4次地震被害想定)

○ 駿河海岸は、津波到達時間が早いことから最大クラスの津波により想定される死者数は、静岡県内の他市町と比較しても多く、「減災」対策に取り組む必要性が高い海岸である。

L1津波	津波死者数(人)
静岡市駿河区	20
焼津市	80
吉田町	0
牧之原市	30
御前崎市	0

L2津波	津波死者数(人)	到達時間(分)		津波高(m)	
		+50cm	+1m	最大	平均
静岡市駿河区	1,200	3	4	12	8
焼津市	11,000	2	2	10	6
吉田町	3,900	3	4	9	7
牧之原市	9,900	4	6	14	11
御前崎市	500	4	4	19	12

※静岡県第四次想定より

(L1津波、冬・深夜、早期避難率高+呼びかけのケース)

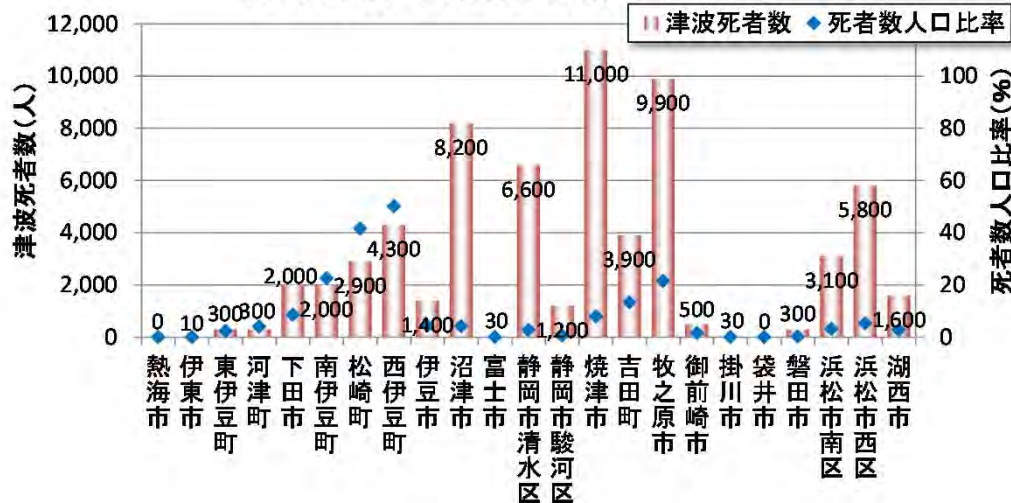
※静岡県第四次想定より

(南海トラフケース①、冬・深夜、早期避難率高+呼びかけのケース)

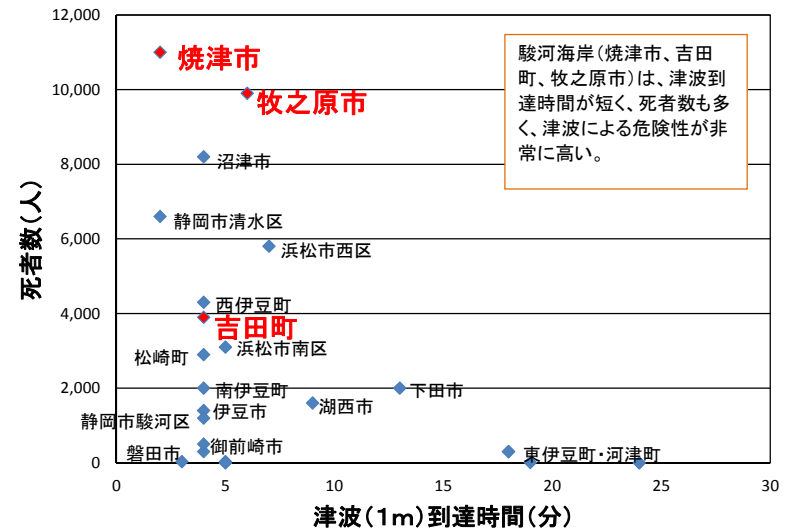
## ■最大クラスの津波による被害と津波到達時間

(南海トラフケース①、冬・深夜、早期避難率高+呼びかけのケース)

市町村別 津波死者数・人口比率

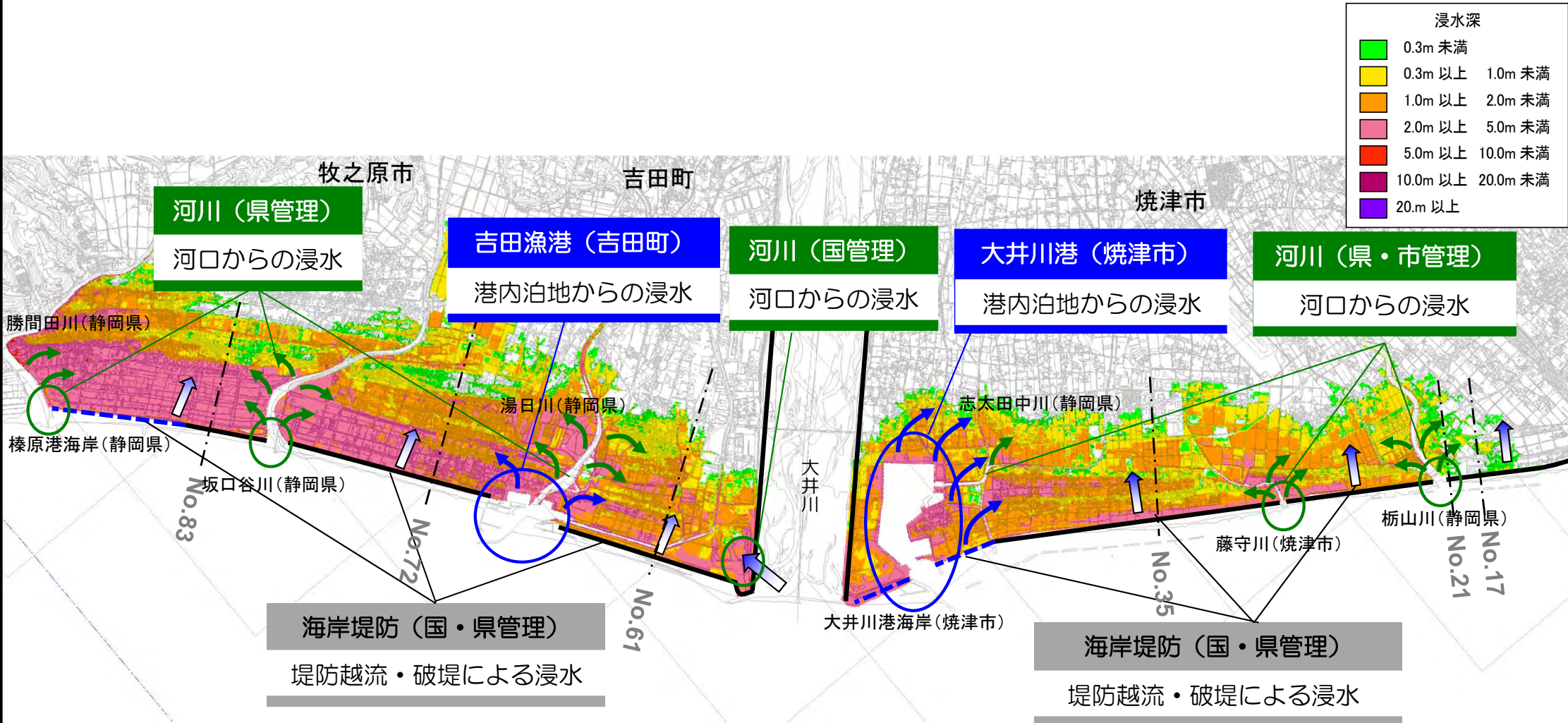


市町村別想定死者数(到達時間別)



# 駿河海岸で最大クラスの津波(L2)が発生した場合の浸水想定

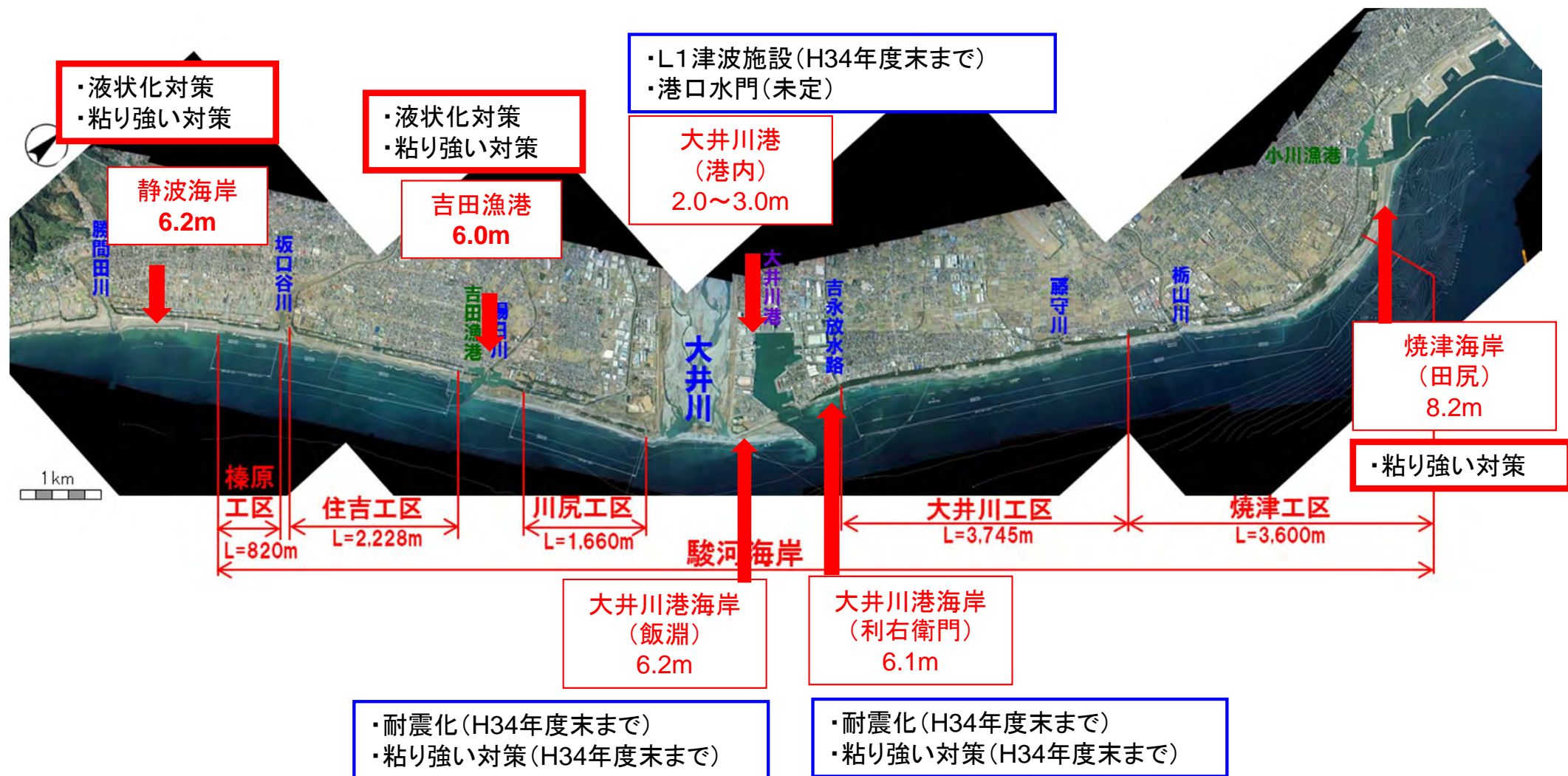
静岡県が想定するL1津波に対しては、現況堤防高を上回ることはない。駿河海岸周辺で予想されるL2津波は最大で約T.P.8.4mであり、駿河海岸の現況堤防6.20m、8.20mより高く、津波が堤防を越流することが想定される。



※南海トラフケース⑥を条件とし、静岡県第四次地震被害想定津波浸水予測モデルをもとに静岡河川事務所が検討

# 各管理者が公表している対策

静岡県アクションプログラム2013(2013.6)対象箇所(今後10年間に着手)



焼津市アクションプログラム2014(2014.11)対象箇所

# 粘り強い海岸堤防の事例(仙台湾南部海岸)

## ①断面形の検討

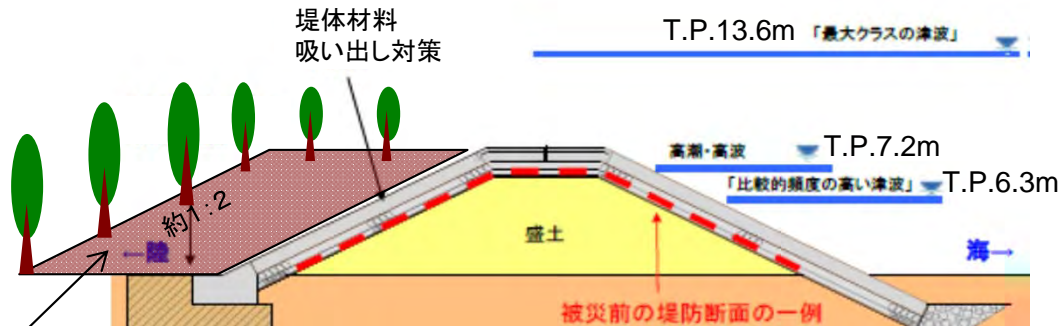
- 天端被覆補強、裏法被覆補強、基礎の大型化及び法尻の保護を実施することで、堤防が全壊に至る危険性を低減



(出典: 仙台河川国道事務所HPより)

## ②盛土断面の検討

- 植生基盤としての盛り土は、地下水までの深さを含む樹木の根系の健全な成長を確保する観点から構造物から約3mの厚さを確保。
- 盛土の勾配は、堤防法面に合わせた約1:2で施工。

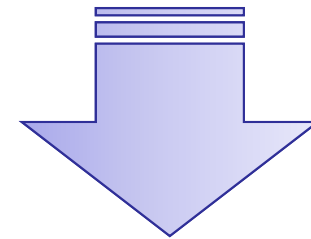


(出典: 仙台湾南部海岸再評価資料を基に作成)

## ③植栽林確保及び植栽活動に向けた検討

- 背後の海岸防災林と一体となった整備として、海岸堤防への盛土(国)と樹林(苗木は公益財団が提供)を整備
- 常緑広葉樹(中高木・低木)を密に植樹

- 市民、ボランティアによる植樹、植樹祭(クロマツ主体は、国で苗木購入・施工)



(出典: 公益財団 瓦礫を活かす森の長城プロジェクトHPより)

# 海岸堤防の整備の考え方(案)

- 各施設管理者は、L1津波に対しての整備と、それを超える津波での粘り強い効果を発現する堤防の整備を基本と考えております。なお、背後地の条件が異なるため、具体の整備の姿については、検討会で示された全体の考えに基づき検討を行います。
- 各施設管理者毎で整備する水準以上の安全性の向上は、それぞれの地域で背後地の状況等を踏まえて、その事業手法も含めて判断します。
- それぞれの地域でより安全性を向上した堤防整備を行うにあたっては、その管理の考え方について整理します。